

本岐小学校が開校100周年
記念式典・祝賀会が開催される

12月1日、本岐小学校の開校100周年記念式典及び祝賀会（主催・本岐小学校開校100周年記念協賛会）が同校で開催されました。

記念式典には来賓、卒業生、在校生、保護者、新旧職員など約150名が出席し、創立時の関係者の努力や苦勞を偲ぶとともに、新たな歴史作りに向けて思いを新たにしました。出席者全員での記念撮影に引き続き行われた祝賀会では、記念品贈呈やアトラクション披露など祝賀ムードが盛り上がる中、第29期生から第88期生までの幅広い世代の卒業生や職員たちが賑やかに歓談し、旧交を温めています。



地域安全パトロールに出動
歳末特別警戒結団式を実施

12月16日、林業研修会館で平成25年度歳末特別警戒結団式（主催 津別町・美幌警察署）が実施されました。

佐藤町長、外崎雅洋美幌警察署長などの挨拶に続いて、美幌警察署の川村雅望刑事・生活安全課長が「歳末警戒に向けた防犯対策」と題する講話を行い、出席者は防犯意識の徹底を確認しました。

結団式終了後に予定されていた地域安全パトロールは、道路状況が悪いため中止されましたが、同パトロールは12月26日と28日の両日に、津別町防犯協会の役員や自治会の警防部長らが参加して実施されます。



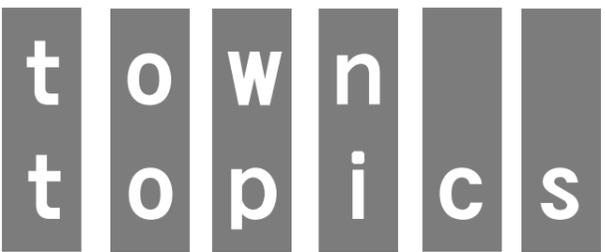
反射材でつなくオホーツク街道
交通安全ぴかっつと作戦実施

11月22日、役場庁舎前で「交通安全ぴかっつと作戦」の夜光反射材たすきリレーと一斉パトライトが実施されました。日没が早くなるこれからの時期に、高齢歩行者などの交通事故を防止するため、オホーツク地域全市町村が参加して行われたものです。

津別町のゆるキャラ「まる太くん」も参加したたすきリレー出発式では、いい夫婦の日（11月22日）にちなんで、津別町老人クラブ連合会副会長の星屋好春さん・アキ子さん夫妻が交通安全宣言を読み上げた後、津別町交通安全協会（柳瀬輝彦会長）から贈呈された反射材たすきを着用し、町の交通安全広報車で次の引継ぎ地・美幌町へ向かいました。



津別町交通安全協会（柳瀬輝彦会長）から贈呈された反射材たすきを着用し、町の交通安全広報車で次の引継ぎ地・美幌町へ向かいました。



まちのわだい

多彩な催しを楽しむ
第18回図書室まつり開催

12月1日、中央公民館で第18回図書室まつり（主催・図書室まつり実行委員会）が開催され、たくさんの方が訪れました。

講堂で行われた恒例の「古本市」では、文庫本から新書本、児童書、小説、実用書雑誌など5200冊の古本が並べられ、1冊10円からと、子どもでも購入できる値段で販売。一人で数十冊をまとめ買いする人もいるなど、午前中から読書好きや家族連れで賑わいました。



また、玄関ホールで似顔絵パフオーマンスや早描き似顔絵が行われたほか、図書室クイズ、お料理教室など、多彩な催しが行われました。

音楽にあわせてシェーブアップ
かっこよく踊ろう！講座開催

12月11日、中央公民館でつべつ総合型スポーツクラブ「かるつちやつべつ」の事業・かっこよく踊ろう！講座が開かれました。

高校生を含む50人あまりの参加者が、健康運動指導士・石川朋美さん（札幌）の指導で、音楽に合わせて軽快にステップ。

少々ハードな運動もありましたが、それぞれのペースで取り組みEXILEばりの華麗な？ダンスにも挑戦するなど、心地よい汗を流していました。



認定こども園のために
軍司さんから町に寄付

11月29日、美都の軍司さんから、開設準備が進む認定こども園のために役立てていただきたいと、100万円の寄付をいただきました。

これまで津別町にお世話になつたお礼にと、寄付を思い立たれたそうです。

町長から「ありがとございませす。寄付金はご趣旨に沿って大切に使用させていただきます」と、感謝状を贈呈しました。



地域の
活動の
思い出
つべつ
の
思い出
つべつ
の
思い出

地域おこし協力隊隊員が津別町に来て学んだこと感じたことをつづります。

「つべつの宝もの
「透明な空気感」



檜山 栄味子

初めての渓流釣りで裏の川から晩のおかずをゲットして感動！ あいおい物産館を拠点に活動。三重県出身。

名前の「栄味子」という漢字に木が多いなあと思つていました。結婚して「檜山」になってますます木が増えました。愛林のまちつべつと縁があったのでしょうか。皆様、どうぞよろしくお願いします。

7月に相生に来て一番驚いたのは、空気の透明感でした。晴れた日の早朝散歩に出たとき周りの景色を見て「この爽やかさは一体なんなんだろう？」と思わずつぶやきました。

広い空、遠くの山や牧草地、足元の小さな草花までもキラキラ輝いて見え、自分の目がどうかしたのかと思いました。

夏は晴れた日が多かったからか、そんな爽やかな朝が毎日続くので怖く

なったほどでした。

以前、大雪山の登山中、標高約2000メートルの山の上で、雷に遭遇しました。色んな方向から飛んでくる雷光を避けながら、避難小屋に逃げ込みました。雷が過ぎるのを待つて小屋の外に出ると、山の上の澄んだ空気がさらに雷雨に洗われて、それはそれは爽やかな空気だったのです。

相生では、それと同じ爽やかな朝がずっと続いていたので、きっと山の上の雷雨を思い出して怖さを感じたのでしょう。見えなくても、すべてのものの見え方を変えてしまう空気。

この空気の透明感はずべつのかげがえのない宝ものだと思います。

